

諏訪信仰への思い語る

映画「鹿の国」公開1周年記念

あすまでトーク付き特別上映会

岡谷スカラ座



映画「鹿の国」公開1周年を記念したりバイバル上映を行っている岡谷市中央町の映画館・岡谷スカラ座で10日、トーク付き特別上映会が開かれた。上映後に弘理子監督と大昔調査会の高見俊樹代表が舞台に立ち、撮影秘話や諏訪信仰に寄せる思いを熱く語り合った。トーク付き上映は11、12日にも行われる。

(浜武司)

「鹿の国」は、農耕と狩猟が密接に関わる諏訪大社の四季の祭礼を追ったドキュメンタリー映画。諏訪信仰研究者の北村皆雄さん、伊那市出身の諏訪信仰について語る弘理子監督と高見さん

日本最古の神社の一つ・諏訪大社で長らく畏怖と謎に包まれてきた中世の祭礼「御室神事」の再現を記録している。

「鹿の国」はドキュメンタリーとしては全国で異例のヒットをした作品。スカラ座でも昨年正月から約2カ月間上映。県外からも多くの人が訪れるなど予想以上の反響で、

トークイベントでは、弘理子監督と高見さんが映画の撮影秘話や諏訪信仰について語り合った。弘理子監督は「諏訪には何かがあると本能的に感じている人が多い」とし、「本質的な諏訪の魅力を見よう」ときには、あえて諏訪を出さずに説明がない方が多くの人の心に本質が届くのかもしれない」と語っていた。

共通するふるさとの郷愁をかき立てる何かがこの作品にはある」と評価した。

11日のトークイベントにはスワニズムの石笠三千穂事務局長と弘理子監督、12日は映画に大祝役で出演した大和央宙さんと石笠事務局長、弘理子監督の3人が出演する。問い合わせは同館(電話0266・22・2773)へ。